♦♦♦♦♦♦♦♦♦♦ ≪5. ⊐ ⋽ 払 » ♦♦♦♦♦♦♦♦♦

今更ながら気づいたこと

岩手産業保健推進センター M. T

もう10年以上前になりますが、私は、外国人が日本の医療を学ぶ研修を実施する部署で働いていたことがあります。参加人数、期間は様々でした。その中で、3か月間の日本語を修得することを主とした研修がありました。

ある年の日本語医療研修の参加者は2名。タイと中国からの看護師でした。中国からの看護師(Sさん)は2回目の受講だったこともあり、来日当初から日本語でのコミュニケーションに事欠きませんでした。もう一人の受講生、タイからの看護師(病棟の師長Oさん)は、ほとんど日本語を理解できませんでした。

どちらも病院を代表して日本での研修を受けに来ており、とても優秀な看護師でした。しかし、2人の日本語能力は歴然とした差がありました。最初の1か月が過ぎた頃、私はOさんに「Sさんは2回目の受講だから、とてもよく日本語ができるね。Oさんは、そのことで落ちこむとか、嫌な思いをしていませんか?」と聞いたことがあります。彼女は「ありませんよ。だって、他の人との比較は必要ありません。自分の中での比較しかしません。」と笑顔で答えてくれました。 私は「なるほど」と思いました。1か月前と今日の自分、1週間前と今日の自分

私は「なるほど」と思いました。1か月前と今日の自分、1週間前と今日の自分 の比較。その間に、上達、向上しているか、目標に近づいているかが大事であり、 誰々さんより、劣っているとかできるとか比較する必要はないのだと。

のさんは、日々の多大なる努力により(自宅勉強 8 時間以上)、日本語を確実に修得し、3 か月後、見事な日本語でスピーチをしました。3 か月間で彼女の日本語能力は格段の上達を遂げました。

「誰かとの比較」に慣れ過ぎていた私は、自己肯定しにくく、いつも足りない、 足りないと思っていました。彼女との会話で、「私は無意識のうちに、他人と比較 し、一喜一憂しているのだ」と気づかされたのでした。視点を変えれば、自分は昨 日より前進していると感じることができる。そのことに、気づかせてくれたOさん に今でも感謝しています。